

所信表明書

この度、奈良県立医科大学附属病院病院長に立候補させて頂きました放射線医学講座の吉川公彦です。選考にあたり、所信表明の機会をいただきましたことに深く感謝を申し上げます。

私は奈良県で生まれ、奈良県で育ち、奈良県立医科大学卒業後も、海外留学を除いては殆ど奈良県下で勤務をしており、奈良県と母校奈良県立医科大学を愛する気持ちは誰にも負けないと自負しております。さて現在、奈良県の医療情勢には様々な問題があります。慢性的な医師不足、地域偏在、高齢化社会と医療費の高騰を受けて、地域医療構想の実現に向け、医療機関の機能分担が求められていると考えています。私は本学附属病院が、地域の様々な医療機関と連携しながら地域医療を支える一方で、奈良県の基幹病院として、また特定機能病院として、高度で先進的な医療を提供できる、国内外でも存在感のある病院として、今後も発展するよう誠心誠意努力する所存です。

以下に、選考委員会からお示しいただいた院長選考基準に従って、所信を述べさせていただきます。

1. 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有していること

医療安全管理責任者を拝命し、関連する委員会の委員長、委員として医療安全管理業務を経験して参りました。医療安全の確保には医療安全に関する情報を収集・分析し、適切な対策を講じることが基本です。

そのために

- 1) 医療安全に対する診療内容のモニタリングや医療安全の認識の浸透度の確認を行い、結果に基づく事故等の防止策を立案、マニュアル作成、取り組み状況の確認と指導を行います。
- 2) 死亡例の全例報告、死亡例以外でも一定以上の事例の全職員からの報告を徹底します。
- 3) 高難度新規医療技術導入プロセスを明確化します。
- 4) 法律家や一般人も含めた監査委員会、医療安全管理委員会による自己点検と内部統制の強化を実行します。
- 5) 重大な有害事象発生時には、多職種、専門家を交えたタイムリーな検証と再発防止策の実施、患者や家族への説明、対応を適切に行います。

以上を徹底し、ガバナンスの強化と医療安全文化の醸成に努めていく所存です。

2. 人との信頼関係を重視し、社会規範、コンプライアンスを遵守できること

積極的な対話、協力を通じて良好な信頼関係を築くとともに、社会規範を尊重し高い倫理観に基づき、社会人・医療人として法令を遵守し、良識に従って行動する所存です。

3. 奈良県立医科大学附属病院の理念を実現するための熱意、戦略と実行力を有すること

- 1) 奈良県民を守る「最終デフェンスライン」の実践を目標に、高度・先進医療を推進します。24時間365日のER実施に向けて救急医療体制を強化し、また災害拠点病院として、奈良県民を守り、地域の安心の確保に貢献できるよう努力します。
- 2) 基幹病院として、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患をはじめとするあらゆる疾患に着実に対応するとともに、患者安全の取り組みを推進します。
- 3) 地域医療機関との機能分担、緊密連携を推進し、地域医療を支えます。
- 4) 地域に貢献する医療人の確保を目的に臨床研修プログラムの充実、奈良県専門医協議会での協議を経て、

氏名

吉川公彦

県内基幹病院と連携して、専攻医養成プログラムの充実を図り、県内専攻医の登録率向上を目指します。

4. 組織管理能力等の当院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有していること

放射線医学講座教授、放射線・核医学科診療部長として、医局員の合意を形成し、質の高い診療、教育、研究の実践に努めて参りました。

今後は副院長、プロジェクトリーダー、病院執行部との意思決定、合意形成によるガバナンスの強化に努めるとともに、病院経営に必要な会議・委員会の開催、中期計画に沿った年次計画の作成、理念・基本方針の整合、部門・部署ごとの目標設定、達成度評価を行うことで、本院の管理運営に努力します。

5. 法人の運営について、他の役員と一致団結して、公立大学法人奈良県立医科大学の発展に貢献できること

臨床教育部長、中期計画委員、キャンパス整備検討WG委員として、法人運営に参画した経験を活かし、大学と密に連携して附属病院の運営を行うとともに、全職員が一致団結して、中期計画目標を達成しつつ、本学が今後も益々発展し、主たる大学として存続できるよう努力致します。

6. 医療従事者の新しい働き方についてリーダーシップを発揮できること

各部署での業務上の課題を抽出、共有し、業務内容の標準化、質の向上、効率化を行い、働き易く、やりがいのある職場環境の醸成に努め、新しい働き方を実現し、職員のモチベーションの向上と患者と心が通える温かみのある医療実践に取り組んで参ります。具体的な取り組みとして以下の5点を上げさせていただきます。

- 1) WGを設置し、現場から、働き方改革に関する情報と自発的なアイデアを収集・分析する。
- 2) タスクシフティング、ワークシェアリング、医師事務作業補助者の増員等により、作業効率を改善する。
- 3) 会議のあり方を検証し、効率化を進め会議時間の短縮を図る。
- 4) 最善の医療を行うため、多職種によるチーム医療の意思決定を迅速に、かつバランス感あるものとする。
- 5) あらゆる職種に対し、作業の安全性と効率性を考慮し、ITの導入を検討する。

7. 臨床研究を推進するための戦略と実行力を有すること

私はIVR（画像下治療）に先進的に取り組み、各種IVR手技の臨床的有用性を検証するとともに、動物実験用血管造影装置、CTを用いた基礎的研究に裏付けされた新規IVR手技・デバイスの開発に取り組んできました。今後は多施設共同研究、トランスレーショナルリサーチ、産学連携を推奨し、臨床研究センター主導の臨床研究中核病院認定に向けての体制づくりを推進していく所存です。

以上、患者と心が通い合う人間味あふれる「良き医療人」の育成に尽力を致しますとともに、地域との緊密な連携のもとに地域医療を支援し、奈良県医療の基幹病院、最終ディフェンスラインとしての機能をより一層強化します。また最先端の医療技術の習得に努め、その開発に大きく貢献できる質の高い大学病院を目指し、安全で安心できる、質の高い医療を提供するために、病院長として精一杯尽力する所存でありますので、何卒、ご支援・ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

氏名

吉川公寿